

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪府の人材育成の重点化を踏まえ、東大阪・八尾地域をはじめとする地元企業や広域な企業等との連携を強化し、地域産業のものづくり人材の育成を推進する。
「人づくり・ものづくり・夢づくり」のスローガンのもと、複合化する技術進展の課題に柔軟に対応しながら自己実現を探求し、寛容の気持ちで人と関わり、ものづくりに情熱をもって取り組み、グローバル社会で役割を担える逞しいエンジニアを育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力と社会に向かう力を育成する学校

- (1) 基礎基本の学力を定着させる
- ア 全ての教育活動においてコミュニケーション力、課題発見・解決する力、プレゼンテーション力を育成する取り組みを行う。
- イ 教科・学科（系）において授業内容、技術指導、評価の改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲を向上させる。
- ウ 保護者及び教員を対象とした公開授業期間を設定するとともに、生徒1人1台端末を活用した授業を推進し学校全体の授業力の向上を図る。
- エ 1学年で実施している基礎学力調査の分析結果（GTZ）に基づいた生徒個別の学習指導を行い学力の向上を図る。
- ※学校教育自己診断(生徒)「わかる授業（学習指導）」肯定率（R3：79%、R4：87%、R5：85%）85%以上を維持する。

- (2) 社会人として必要な力を身につけさせる
- ア 再編整備計画における重点事業として、地域産業との連携強化によりデュアルシステムを推進し令和6年度より本格実施する。
- イ 地域産業連携重点校として2年生へのインターンシップを推進し、将来の職業への理解を深める。
- ウ 広域な企業や業界団体との連携による出前授業や、企業経営者による講演会等のキャリア教育・職業教育を推進する。
- エ 製造現場で役立つ資格・検定及び各種コンテスト等への参加を推進し、生徒の自信や意欲の醸成を図る。
- ※デュアルシステムが令和6年度より本格実施となることから、協力企業への就職や進路選択の充実に向けた取組みを進める。
- ※令和8年度までのデュアルシステムの取組みに係る成果検証を行い、統合新校へ継承できるよう検討を進める。
- ※就職率100%を維持する。
- ※資格検定合格者数（R3：449人、R4：346人、R5：331人）300人以上を維持しつつ受検を推進する。

2 生徒一人ひとりを尊重し人間性豊かなエンジニアを育成する学校

- (1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
- 挨拶指導・遅刻防止指導・スマートフォン指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S+2A（整理・整頓・清掃・清潔・躰+安全・挨拶）を推進する。
- ※転学・退学率（R3：6.4%、R4：5.7%、R5：8.3%）令和8年度までに3%以下を達成する。
- ※遅刻件数500件以下を維持する。（R3：548件、R4：403件、R5：407件）
- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
- 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止等の多彩な講演会・研修を実施する。
- ※学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率（R3：90%、R4：92%、R5：92%）85%以上を維持する。
- (3) 教育相談体制の充実を図り、生徒支援部・学年・系の連携による生徒支援を行い生徒の自己肯定感を高められる教育相談活動を行うとともに、学校での生徒の居場所づくりを推進する。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等とも連携しながら課題の早期発見と生徒に合った支援ができるようにする。
- ※学校教育自己診断(生徒)「担任の先生以外にも、悩み事などを相談できる先生がいる」肯定率（R3：67%、R4：73%、R5：75%）を向上させ、令和8年度までに80%に引き上げる。
- (4) 生徒会執行部による体育祭や文化祭などにおいて生徒全員が主体的・自律的な活動ができるよう支援する。また、部活動の推進にも努める。
- ※部活動加入率（R3：44%、R4：63%、R5：68%）令和8年度までに70%を達成する。

3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒が安心して過ごせる環境づくり
- ア 安全安心な高校生活のためのアンケートを実施し生徒の状況把握を行う。
- イ 支援人権相談会議を定期的に開催し、生徒の情報共有を図るとともに地域の福祉機関からの情報についても共有を図る。
- ウ 生徒の防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの見直し、不審者侵入時の対応マニュアルなどの作成により学校の危機対応能力を高める。
- ※学校教育自己診断(生徒)「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率（R3：85%、R4：88%、R5：90%）85%以上を維持する。
- (2) PTA活動や学校運営協議会等の充実
- ※学校教育自己診断(保護者)「学校のPTA活動は活発である」肯定率（R3：73%、R4：80%、R5：83%）75%以上を維持する。
- ※学校教育自己診断(保護者)「本校の授業参観や学校行事に参加したことがある」肯定率（R3：36%、R4：52%、R5：57%）50%以上を維持する。
- (3) 広報・渉外活動による学校の魅力発信
- ア 校外でのものづくりイベント等への生徒の積極的な参画を推進する。
- イ 学校HPへのタイムリーかつ効果的な情報の掲載を行う。
- ウ 統合新校に係る広報活動の在り方について検討を進める。
- ※学校教育自己診断(保護者)「学校は、教育情報について提供の努力をしている」肯定率（R3：79%、R4：82%、R5：82%）を向上させ、令和8年度までに85%に引き上げる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○学校生活 ・生徒、保護者の学校生活に係る満足度は高く、今後も授業や資格取得、クラブ活動、学校行事を通して、楽しいと思える取り組みを実施していく。 ○学習指導 ・教員同士の授業見学や研究授業により工夫・改善を行い、1人1台端末を活用した授業を行うことで、生徒の理解度に成果が表れている。今後も引き続き、わかりやすい授業づくりを推進する必要がある。 ○生徒指導 ・納得できる生徒指導への肯定率が生徒、保護者とも80%以上となっている。今後も、学校と家庭の連絡を密にとりながら、より一層生徒一人ひとりに合った丁寧な指導を行う必要がある。 ・また、定期的な集会だけではなく、ホームルームをはじめ様々な機会を通じて、社会のマナーやルールの大切を伝えていくことが大切である。 ○人権教育・いじめ対応 ・あらゆる教育活動において人権意識を持ち、生徒に伝える機会を設けている。 ・「いじめは絶対に許されない」との姿勢を持ち未然防止に取り組んでいる。今後も安全安心な学校づくりを全体で行う必要がある。	○第1回（令和6年6月21日開催） ・インターンシップを通して社会との繋がりを気づかせるようにしていただければと思う。 ・生徒ひとりひとりの居場所作りや声掛けは大切。 ・コロナ前にあった保護者向けの企業見学についても検討してもらいたい。 ・資格検定や校外イベント等の情報提供を、クラッシーで保護者へも連絡をしてほしい。 ・城東工科との統合に向けても、PTAとして協力していきたい。 ○第2回（令和6年12月13日開催） ・閉校を見据え、在校生を大切にしながら活動を進めている。 ・SC、SSWとの連携により丁寧な生徒指導に繋がっている。 ・生徒は生き生きした表情をしており、学校が楽しいと感じるような取り組みができています。 ・デュアルで現場を体験することで、生徒の進路選択に役立っている。 ・資格検定など学校の情報を細かく発信していただいているので、引き続きお願いしたい。 ・引き続き城東工科とのPTA活動の交流を進める予定。 ○第3回（令和7年2月25日開催） ・「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」ことへの生徒の肯定的評価が大変高く、子どもたちが学校生活において充実していることが表れている。 ・学校が楽しいと感じている生徒が多く素晴らしいと思う。楽しい学校には遅刻もせず登校することに繋がっていると思うので、日ごろの先生方の取り組みの成果ではないかと思う。 ・資格検定への取り組みは、やはり吸収しやすい高校生の時期にしっかりやることが大事である。 ・ジュニアマイスターの受賞者に対してPTAから副賞を提供する予定。これを励みに子どもたちが意欲的に、資格取得に取り組んでもらえたらと思っている。 ・令和7年度の新入生はなく、生徒、教員も減少していく中で、先生方にはより一層生徒に寄り添ってほしいと思う。 ・生徒たちの思い出に残るような、楽しい生徒会活動をしてもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確かな学力と社会に向かう力を育成する学校	（1）基礎基本の学力を定着させる （2）社会人として必要な力を身につけさせる	（1） ア PBL導入にあたり1年生「キャリア設計」においてコミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成する取り組みを行う。 イ 教科・学科（系）において観点別評価にあわせた授業内容改善の取り組みを行う。 ウ 保護者及び教員を対象とした公開授業期間を年2回設定し実施する。 エ 1学年で実施している基礎学力調査の分析結果（GTZ）に基づいた生徒個別の学習指導を行う。 （2） ア 地域産業との連携を強化しデュアルシステムを実施する。 イ 2年生へのインターンシップを実施する。 ウ 企業連携による出前授業や企業経営者による講演会を実施する。 エ 資格・検定への挑戦を促し、各種コンテスト等への参加も推進する。	（1） ア 学校教育自己診断(生徒)「わかる授業(学習指導)」肯定率85%維持 [85%] イ 学校教育自己診断(生徒)「成績評価には納得している」肯定率85%維持 [87%] ウ 公開授業を年2回実施 [2回] エ GTZ分析において個別学習指導により成績が上がった生徒80%をめざす。 [75%] （2） ア 協力企業20社、参加生徒40人 [14社、32人] イ 2年生全員参加 [100%] ウ 専門系における企業連携の取り組みを行い就職内定率100%維持 [100%] エ 資格検定合格者300人以上 [331人]	（1） ア 学校教育自己診断(生徒)「わかる授業(学習指導)」肯定率85%(○) イ 学校教育自己診断(生徒)「成績評価には納得している」肯定率91%(◎) ウ 公開授業を年2回実施(○) エ GTZ分析において個別学習指導により成績が上がった生徒、昨年度と同様75%(○) （2） ア 協力企業17社、参加生徒40人企業・生徒の丁寧なマッチングの結果、参加生徒全員の職業観・勤労観の醸成につながった。(○) イ 2年生全員参加 100%(○) ウ 就職内定率100%(○) エ 生徒の減少に伴い資格検定合格者も減少し266人(△)

府立布施工科高等学校

2 生徒一人ひとりを尊重し 人間性豊かなエンジニアを育成する学校	(1) 生徒との信頼関係に基づいた生活指導	(1) 生徒への丁寧な説明をしたうえで生活指導を行う。 ア 転・退学生徒の減少に努める。	(1) 学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」肯定率 85%以上をめざす。[84%] 学校教育自己診断(保護者)「学校の生活指導の方針に共感できる」肯定率 85%以上をめざす。[84%] ア 転・退学率 5%以下をめざす。[8%]	(1) 学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」肯定率 83%(△) 学校教育自己診断(保護者)「学校の生活指導の方針に共感できる」肯定率 85%(○) ア 上昇を続けていた転・退学率について、本年度は減少し 5% (○)
	(2) 人権教育や様々な講演会・研修の推進	イ 挨拶指導・遅刻防止指導を推進する。	イ 遅刻件数 500 件以下を維持 [407 件]	イ 遅刻件 348 件(○)
	(3) 教育相談体制の充実	(2) ア 人権教育を実施する。 イ 安全指導、薬物乱用防止講演会等を実施する。	(2) 学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率 85%維持 [92%]	(2) 学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率 95% (◎)
	(4) 生徒会活動の支援	(3) ア 学校での生徒の居場所づくりを推進する。 イ SC、SSW と連携し課題の早期発見に努める。 (4) ア 生徒全員が主体的・自律的な活動ができるよう支援する。 イ 部活動の推進に努める。	(3) 学校教育自己診断(生徒)「担任の先生以外にも、悩み事などを相談できる先生がいる」肯定率 80%以上をめざす。[75%] (4) ア 学校教育自己診断(生徒)「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」肯定率 85%維持 [89%] イ 部活動加入率 70%をめざす。[68%]	(3) 学校教育自己診断(生徒)「担任の先生以外にも、悩み事などを相談できる先生がいる」肯定率は昨年度を上まわる 78%(○) (4) ア 学校教育自己診断(生徒)「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」肯定率 90%(◎) イ 部活動加入率 76%(◎)

府立布施工科高等学校

3 安全安心で魅力ある学校	(1) 生徒が安心して過ごせる環境づくり (2) PTA 活動や学校運営協議会等の充実 (3) 働き方改革の推進 (4) 広報・渉外活動による学校の魅力発信	(1) ア 安全安心な高校生活のためのアンケートを実施する。 イ 支援人権相談会議を定期的に開催し、生徒の情報共有を図る。 ウ 生徒の防災意識を高める。 (2) 校内外での PTA 活動を推進する。 (3) ア 校務運営の効率化を図る。 イ ストレスチェックを踏まえた改善を図る。 (4) ア 大阪府産業教育フェア、校外でのものづくりイベント等へ生徒を同行させ PR 活動を行う。 イ 学校 HP へのタイムリーかつ効果的な情報の掲載に努める。 ウ 統合新校に係る広報活動の在り方について検討を進める。	(1) ア 生徒の状況把握の結果を踏まえ、専門人材を活用しながら、生徒への対応を行う。 イ 学校教育自己診断(生徒)「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 85%維持 [90%] ウ 防災避難訓練の実施 (2) 学校教育自己診断(保護者)「学校の PTA 活動は活発である」肯定率 80%維持 [83%]、 「本校の授業参観や学校行事に参加したことがある」肯定率 50%維持 [57%] (3) ア 会議資料のペーパーレス化を進め、職員会議をオンラインや会議室とオンラインのハイブリッドでの実施 50%をめざす。 [新] イ ストレスチェックの健康リスク指数、全国平均の 100 以下をめざす。 [101] (4) ア 校外での活動 - ものづくりイベント 5 件維持 [9 件] - 説明会 5 回実施 [4 回] イ 学校教育自己診断(保護者)「学校は、教育情報について提供の努力をしている」肯定率 85%以上をめざす。 [82%] ウ 統合新校の教育内容に応じた広報活動について教育庁及び城東工科高校とも連携・調整しながら検討する。	(1) ア 生徒の状況把握結果 日常生活アンケートの結果を踏まえ、SSW からの所見とともに担任へ共有し生徒への対応を行った。 また、いじめアンケートに基づき、丁寧な生徒対応を行った。(○) イ 学校教育自己診断(生徒)「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 91% (◎) ウ 防災避難訓練を 1 回実施(○) (2) 学校教育自己診断(保護者)「学校の PTA 活動は活発である」肯定率 85%(○) 「本校の授業参観や学校行事に参加したことがある」肯定率 57%(○) (3) ア 会議資料のペーパーレス化を進め、職員会議をオンラインや会議室とオンラインのハイブリッドでの実施 100% [新] (◎) イ ストレスチェックの健康リスク指数 99(○) (4) ア 校外での活動(◎) - ものづくりイベント 6 件 - 説明会 7 回実施 イ 学校教育自己診断(保護者)「学校は、教育情報について提供の努力をしている」肯定率 89%(◎) ウ 城東工科と連携した広報活動(◎) - ショッピングモールでのものづくりワークショップを共同開催 - 東大阪みらい工科高校の学校説明会を共同開催 - 中学校 76 校への訪問を共同実施
------------------	--	---	--	--